

ハイパーサーミア施行時における加圧式医薬品注入器の適正使用の検討

戸畑共立病院 がん治療センター

樋口優子、大田真、北村晶子、垣下ひかる、川崎玲
今田肇、成定宏之、鞆田義士、森岡丈明

加圧式医薬品注入器（シュアフューザー）は流量制御器を皮膚に貼付し、32℃を基準として流量を調整しており、添付文書には「流量制御器は肌に密着固定すること」と明記されているが、当院では治療中のラジオ波による流量制御器の温度上昇を危惧し、皮膚から外して行ってきた。

そこで今回、30症例を無作為に抽出し、装着群と未装着群とで温度を比較し、ハイパーサーミア施行時の適正な使用法を検証した。

結果は装着群：33.6±1.2℃、未装着群：24.3±1.2℃と、装着群でラジオ波による温度上昇は見られず、未装着群で基準の32℃から7℃程度低下した。このことから、ハイパーサーミア施行中において、加圧式医薬品注入器の流量制御器は皮膚に装着して治療を行う必要があると考えられた。